

9 山神社・鯉ヶ久保ふれあいの樹林コース（約 3.9km）

～ 中田南 静かな住宅地の中の緑のオアシス～

このコースの道沿いには、中田コミュニティハウス、中田西たまご公園や、広葉樹に覆われ、小動物・野鳥・昆虫が生息する鯉ヶ久保ふれあいの樹林などがあり、静かな住宅地のオアシスとなっています。葛野小学校の近くに、文化4年（1807）造立で「葛野村氏子中」の銘のある双体道祖神があります。これは、この地を開発し、山神社（やまがみしや）を中心に暮らしてきた人々が立てたものです。踊場から葛野を通り「かまくらみち」を越えて、和泉中央南一丁目と和泉が丘二丁目の境を通り、和泉作右衛門公園南側、長福寺前を通り、神明社で「柏尾通り大山道」と合流する道も「大山道」で、大山詣での道として、また、他の地域とを結ぶ暮らしの道として、重要な役割を果たしていました。

1 中田西たまご公園



昭和45年（1970）ころ、県分譲地の一面に小さな公園があり、そこに大きな卵型の遊具が設置されていたことから通称「たまご公園」と呼ばれていました。平成9年、横浜市に移管され、地元で愛護会が発足し、卵も小さく形を変え、遊具も整えられました。現在の名称は自治会が募集して決まったものです。近隣の小さな子ども達の遊び場になっています。

2 山神社



現在、戸塚苑という地域の住宅地内に祀られている山神社は、昔から葛野に住む15軒の人たちによって信仰され、維持管理されています。3月と11月の17日に年番の家で宮日待を行ない、昔からの信仰行事を続けています。ご神体として元徳2年（1330）と刻まれた板碑が安置されていました。盗難に遭い所在不明となっています。

3 葛野の双体道祖神



山神社北側の道沿いに男女二神が並立した双体道祖神があります。葛野に住む人たちが村人の安全を願い、悪霊が入って来るのを防ぐため、文化4年（1807）に造立したもので、毎年1月14日にはドンド焼きが行われています。道祖神は“さえのかみ”（道祖神の和名。塞の神。障の神）、“さいのかみ”（さえのかみが転じて）、“ふなどのかみ”（岐神）などとも呼ばれ、区内には文字塔や像を彫ったものが40余基ほどあります。

4 鯉ヶ久保ふれあいの樹林



踊場駅そばのこの樹林は平成7年に開園され、面積は1.4haあり、泉区内に3つある樹林の中では一番広い自然とのふれあいゾーンです。斜面をクヌギやコナラ、エゴノキ、ミズキなどの広葉樹が覆い、林床部分にはアオキやヤツデなど多種類の植物が四季を彩ります。コジュケイなどの野鳥やタヌキも見られ、昆虫も棲息する緑豊かな林です。北側には樹林沿いに水路があり、静かに清水が流れています。

5 寒念仏供養塔



踊場駅の入口脇に寒念仏供養塔があります。この塔は元文2年（1737）旧暦の11月、中田寺の住職等5人の僧が念仏修行した時、仕上げとして建立したものです。また、この地には猫が踊ったという昔話が伝わっており、この塔は猫への供養塔とも言われています。

6 踊場駅



市営地下鉄踊場駅は、平成11年8月29日に開業しました。その昔、猫が集まり毎夜踊っていたという昔話にちなんで、天井を走り回る猫（写真）など、構内にはたくさんの猫がデザインされています。その他にもドーム型の空間・照明・モビールなど大変きれいな駅で、平成12年に「関東の駅百選」（国土交通省関東運輸局）に選ばれています。

ウォーキング コラム

5 ウォーキングの予防の効果

ウォーキングは有酸素運動です。
良い効果がたくさんあります。

1日平均 2000 歩	寝たきり予防
1日平均 5000 歩	要介護、認知症、心疾患、 脳血管疾患の予防
1日平均 8000 歩	動脈硬化、骨粗しょう症、 ロコモティブシンドローム、 高血圧、糖尿病の予防

中之島研究所調査より



～ 中田西・下和泉 暦月名の橋めぐりと広大な草原から大山を眺めて～

村岡川（宇田川）に架かる 12 の橋には、陰暦の月名と縄文中期の遺跡に因んだ「かばた橋」の名がつけられ、欄干には各月の花が描かれています。この川沿いの道は、橋を訪ねながら水に親しめる散歩道です。川と別れた後に、旧深谷通信所跡地に出ます。ここでは、富士山が一望できるビューポイントにもなっています。旧深谷通信所跡地を横切り下和泉ふれあい公園、昔ながらの農村の景観を残す防風垣のある矢澤家、第六天神社、四ツ谷湧水を経て、相鉄いずみ野線ゆめが丘駅へと続くこの道は、家族連れのハイキングにも最適です。

1 暦月名の橋とかばた橋



御霊神社の社から湧き出す水が村岡川（宇田川）の源流です。この川には 12 の橋が架かっています。11 の橋には、陰暦月の名がつけられていますが、何故か師走はありません。また、文月と水無月の間には、この地の縄文中期の遺跡にちなんだ「かばた」の名の橋があります。橋にはその月の花が描かれていて、たずね歩くのもまた楽しいものです。

2 旧深谷通信所跡地周辺



泉区の最も南西に位置し、戸塚区と接する旧深谷通信所跡地は、昭和 16 年（1941）、旧海軍の送信業務強化のため、東京海軍通信隊戸塚分遣隊の設置が決定され、用地買収、施設整備が行われ、昭和 19 年（1944）に開隊しました。戦後、米軍の深谷通信所として接收されてきましたが、平成 26 年に返還されました。現在、横浜市は「跡地利用基本計画」の策定を目指し、検討を進めています。ここからは、晴れた日には、西方遥かに大山、丹沢連峰や霊峰富士を展望することができます。

3 下和泉ふれあい公園



この公園は、平成 11 年に開園されました。「ふれあい広場」のそれに続く一段高いところに、子どものためのすべり台などの遊具を備えています。天気の良い日には、「ふれあい広場」でスポーツを楽しむ人の姿も見られます。またここでは、車椅子利用者用トイレのある数少ない公園です。

4 矢澤家の防風垣



防風垣には、乾燥に強く、刈り込みに耐え、樹形がまとまりやすい樹種が用いられます。この防風垣は、2 種類の樹木によって 2 段造りになっています。下部は 2m ほどの高さまで常緑の低木のツゲを、その上には常緑の小高木のモチノキを 10m ほどの高さまで配しています。側面を垂直に、上部を水平に刈り込んだ緑の壁は、延べ 70m にも及びます。



5 第六天神社と酒湧池



下和泉の四ツ谷交差点近くに、第六天神の古社があります。深閑とした境内と鎮座する社殿に、昔が偲べれます。神社の東側に池があり、真中に弁天様が祀られていることから弁天池と呼ばれていました。いつの頃からか孝子伝説にちなんだ「酒湧池」と呼ばれるようになりました。

6 四ツ谷湧水



泉区は地下水脈に恵まれ、湧水の数は市内有数です。四ツ谷湧水は、和泉川の下流、中和泉から下和泉にかかる辺りの一段高くなっている畑の下のくぼみにあり、にじみ出るように水が湧いています。和泉川側道沿いに、案内の標柱も設置されています。

7 ゆめが丘駅周辺



ガーデンハウスをイメージした柱の無い鉄骨構造のホームは、周囲と調和し、明るく開放的な駅です。平成 12 年に「関東の駅百選」（国土交通省関東運輸局）に選ばれました。また、環状 4 号線の架道橋は「ニールセン橋」というアーチ橋の一種で、アーチ部と桁部を斜めに張ったケーブルで結ぶ構造の橋で、在来鉄道では日本で初めて採用されました。平成 26 年度から泉ゆめが丘地区土地区画整理事業が施行されており、駅周辺は新たな街に生まれ変わろうとしています。

ウォーキング
コラム

6 ウォーキングの前後に
ストレッチ

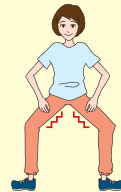
ストレッチは、けがを予防し疲労を回復します。



手首・足首
回す。



背 中
両手を組み、前に伸ばし背を丸める。



太もも
両足を開き、腰を落とし膝を外側に押す。



ふくらはぎ
アキレス腱
前足を曲げ、後ろ足を伸ばす。

9 山神社・鯉ヶ久保ふれあいの樹林コース

地図  のルート

～ 中田南 静かな住宅地の中の緑のオアシス～
スタート
中田駅 - 中田コミュニティハウス - ① 中田西たまご公園
 - ② 山神社 - ③ 葛野の双体道祖神 -
 葛野コミュニティハウス - ④ 鯉ヶ久保ふれあいの樹林
 - ⑤ 寒念仏供養塔 - ⑥ 踊場駅
ゴール

10 かばた橋・旧深谷通信所跡地コース

地図  のルート

～ 中田西・下和泉 暦月名の橋めぐりと広大な草原から大山を眺めて～
スタート
立場駅 - 中田広町公園 - 中田町第五公園 -
 ① 暦月名の橋とかばた橋 - ② 旧深谷通信所跡地 -
 下和泉公園 - ③ 下和泉ふれあい公園 - ④ 矢澤家の防風垣
 ⑤ 第六天神社と酒湧池 - ⑥ 四ツ谷湧水 - 草木橋 -
 下飯田駅 - ⑦ ゆめが丘駅
ゴール



踊場 (9コース)

むかし、戸塚宿に、水本屋という醤油屋がありました。水本屋では、なぜか毎晩一本ずつ手ぬぐいがなくなります。そこで主人は、ある晩、手ぬぐいに紐をつけて、その先を自分の手に結んで寝ました。紐が引かれて目を覚ますと、飼い猫のトラが、手ぬぐいをくわえて逃げようとしていました。主人が、猫が手ぬぐいを何にするのかと、不思議に思いました。ある夜、踊場付近を主人が通りかかると、手ぬぐいをかぶった猫たちが踊りながら、「おい、今夜は水本のトラがないぞ」「あいつ、今夜家で熱いオジヤを食べさせられて、舌にやけどしたと言っていたぞ」「そうか、それで来ないんだ」「トラがいなければ、調子があわねえ」などと、話し合っています。びっくりした主人が家に帰って聞いたところ、やはりトラにオジヤを食べさせたということです。そこで、手ぬぐいのなくなるなぞが、やっと解けたということです。 - 「戸塚区郷土誌」 -

酒湧池 (10コース)

むかし、第六天神社の近くに孝行息子がいました。父親は寝たきりの病人で酒が大好きでした。苦しい生活の中から幾ばくかの金を作り出して父親に酒を飲ませていましたが、ある日、第六天神社のそばの山道を通るとブーンと酒の匂いがしてきました。その匂いは山の中の池からしていました。息子は急いでそれをくんで持って帰り父親に飲ませました。すると、「こんなよい酒は飲んだことがない」と父親は非常に喜びました。毎日毎日息子はその池の水をくんで、父親に飲ませていました。しかしある朝、息子はいつも通りくんできた酒樽を村人に見られてしまいました。その村人はこれで一儲けしようとして、大きな樽に池の水をくみましたが、水はただの水になっていました。息子が村人に酒樽を見られた橋はその後、樽見橋といわれるようになりました。また、一説には、酒をくんできた息子が村人に見つかったので、急いで樽をその橋の下に隠した、その一人占めにしようとした心が神様の氣にふれて、ただの水になってしまったのだ、ともいわれています。 - 「中和郷土誌」 -

